

第4回 清瀬市「夢空間」保存活用検討委員会 会議録

1 開催日時

令和7年1月31日（金）午後5時～午後7時00分

2 場所

清瀬市役所4階 研修室2

3 会議内容

（1）開会

《委員長より》

本委員会の委員の任期は令和7年1月31日だが、提言書作成にあたりもう少し議論を行う必要があるため、任期を延長して第5回目を実施することとする。2月の後半で開催予定。別途、事務局にて日程調整をする。

（2）挨拶

委員長が挨拶を行った。

（3）資料確認

事務局から配布資料について説明を行った。今までの委員会での議論をふまえ、「夢空間」保存・活用方法に関する提言（案）を作成した。また、参考資料として委員からの提案書を添付した。追加の参考資料として、昨年度の清瀬市鉄道車両譲受検討委員会で作成した「鉄道車両選定に関する提言」についても委員へ配布した。

（4）第3回委員会の会議録について

委員長から、会議録の内容に問題がなければ市ホームページへ掲載する旨を説明し、掲載について委員の承認を得た。

（5）意見交換

ア 提言書（案）について

今までの委員会での議論をふまえ、事務局にて作成しているものである。本日は、提言書（案）をもとに議論を行い、再度、意見を反映させた提言書（案）を次回提示する。第5回目で内容確認・校正を行い、最終的な提言書を完成させる。

イ 提言内容について

《以下委員からの意見》

【1 ページ目：鑑文について】

- ・市長の名前の後の敬称は「様」ではなく「殿」のほうが適切ではないか。
- ・最後の文「計画の方向性について提言するもの」の「方向性」という表現は少し曖昧ではあるが、本委員会の段階では非常に細かいことを検討するわけではないので、「方向性」という言葉は妥当だと考える。
- ・提言者の名前は、委員長のみではなく、「委員一同」や「委員会名」として、委員会一同の意思であることを示したほうが良い。
- ・将来の夢のようなことを記載しても良いのではないかな。
⇒鑑文ではなく提言書の中身に盛り込むのが良いと思う。
- ・「にぎわいの創出」ということが前面に出ていて、最後のほうに「後世に引き継ぐ」という文が出てきているが、後世に引き継ぐというのは、「広い意味での文化遺産として引き継ぐ」といったニュアンスで追記しても良いと思う。
- ・鉄道車両譲受検討委員会の「鉄道車両選定に関する提言」の内容がとても参考になる。大きな発展可能性を具体的にどのように発展させていくのかを検討することが本委員会の位置付けであると思う。鉄道遺産としての価値やシティプロモーション、シビックプライドの醸成ということを念頭に本委員会で検討を重ねたということを記載した方が良いと感じた。

◆以下、「鉄道車両選定に関する提言」より一部抜粋◆

『この車両は、日本における豪華寝台客車のパイオニアであり、鉄道遺産としての価値も高いことから、これを譲り受けることにより、清瀬市として中央公園のにぎわいの創出はもとより、シティプロモーションや市民のシビックプライドの醸成の側面からも大きな発展可能性を秘めていると考える。』

⇒夢空間を譲り受けた後の理念が簡潔に表現されている。

- ・現時点の提言書（案）だと、1～3段落目にかけて経緯が多く書かれているので、これを少し簡略化して、「利活用」や「後世へ引き継いでいく」といった内容を反映させたい。そうすることにより、鉄道車両譲受検討委員会の「鉄道車両選定に関する提言」に記載されている理念を引き継いでいることを表現する。

【3 ページ目：委員名簿について】

- ・氏名や所属に誤字脱字などないか確認。
- ・委員会のオンライン参加については記載不要かな？
⇒参加形態についても記載するようにする。（事務局）

【4 ページ目：「夢空間」の保存・活用に係る清瀬市の基本的な考え方について】

《事務局より記載内容の前提》

清瀬市の基本的な考え方であることから、議会答弁の内容を端的にまとめて記載しているものなので、委員会での意見としてまとめているものではない。シビックプライドの醸成等についても答弁では触れているが、こちらでは端的に記載していることから不足している部分もある。

《委員からの意見》

- ・夢空間車両の譲り受けや搬出入について報道されたことにより、清瀬市の認知度が高まったと思う。人が集まると問題が生じることもあるが、このようなことは認知度の向上や市民同士の交流になり、効果があると思う。
- ・今まで関心の無かった人でも興味関心を持った。注目を浴びるものが清瀬市に来たと認知する人が増えたと思う。
- ・清瀬市が夢空間と一緒にシビックプライドをあげていくスキームのようなものは提言に記載しても良いと思う。
- ・譲り受ける目的については、にぎわいの創出はもとより、シティプロモーションやシビックプライドの醸成が大事であり、目的なのだとすることを記載して、鉄道車両譲受検討委員会の提言を引き継いでいきたい。
- ・にぎわいの創出だけだと漠然としていて弱く、にぎわいの創出というのはどこの行政でも当たり前に行っていることである。そのため、にぎわいの創出だけでなく、シティプロモーションやシビックプライドの醸成が大事であることをしっかり表現したい。
- ・シビックプライドに関することを入れて、市民みんなで育てていくということを記載したほうが良いと思う。
- ・「シビックプライド」の言葉の意味について、「市民意識」という解釈があるが、「市民意識の醸成」だと少し古い表現なので、シビックプライドという言葉はこのまま使っても良いかもしれない。清瀬市のシビックプライドとは何なのか？と考えることで、この活動に多くの人を呼び込むきっかけにもなるのではないかなと思う。
- ・「清瀬市の」基本的な考え方なので、本日の議論を通じて細かい表現は市で検討していただきたい。
- ・清瀬市の態度表明がそのまま書かれている印象を受ける。主語が清瀬市になっているので、間接表現にしてはどうか。
⇒この「基本的な考え方」については、清瀬市が今までどのように説明してきたかということ参考として記載している。前提の情報として記載しているだけなので、あくまでも参考程度の内容であり、提言書に含めなくてもよい。（事務局）
⇒「清瀬市がどのように考えているかを委員がどう認識しているかを記載

する場所」であると誤解していた。清瀬市の今までの考えをふまえた委員会の提言となる旨と理解したが、それが伝わるように記載してほしい。(委員長)

- ・「飲食のできるカフェ設置の要望が多かった」という部分について、何が根拠なのか。根拠はしっかりと示すべきである。
⇒ワークショップで出てきた意見である。(事務局)
- ・カフェ以外の要望もあったことはしっかり記載しないと、誤解を与えかねない。委員会でも飲食の場だけではないと今までも議論されてきたので、その点についても記載したい。
- ・提言書に記載するならば、委員会を主語にして書くべきだと思う。「委員会では市の考えをこのように受け止めて委員会で議論をして提言をする」という組み立てにしても良いと思う。
- ・事務局は、今まで議論されてきた内容を客観的な意見として記載しているが、委員会が議会等での議論を引き取って、委員会を主語としてももう少し踏み込んで記載してみるのも良いのではないかと思う。
- ・事務局の説明のとおり、あくまでこれまでの説明内容を載せたということなので、その内容を全部委員会が受け止めなくても良いのではないかと思う。記載してあることは、委員会で話してきた内容と大きくずれているわけではない。
- ・そうすると、適切にまとめられているかが問題になってくるので、今までの議論の経緯がわかるように記載していただきたい。
⇒市としての考えを参考までに載せたが、提言書に入れる必要はないと考えている。(事務局)

【5 ページ目：委員会での意見 (1) 清瀬市との関わりについて】

- ・もう少し「育てる」ということを前面に出すべきである。
- ・鉄道車両だと、その地域を走っていないと意味がないと言われがちだが、美術品で考えてみるとそのような議論にはあまりならない。これは、人類としての普遍的価値があるからということだと説明できる。夢空間についても、価値があるものを清瀬で引き取って育てていくのだということは、本委員会でも何度も議論されてきたことなので前面に出していきたい。
- ・価値があるものを清瀬で引き取って育てていく。そのような態度で臨むということを前面に出す。そのうえで夢空間は清瀬市内を走ったことがあると説明したら面白いかもしれない。
- ・「縁もゆかりもない」といったことは記載しないほうがよいかな？
⇒途中経過の話も盛り込んでも良いと思う。「縁もゆかりもないと言われているが」と先取りで言うのも良いと思う。
- ・一般的に鉄道車両の保存は、地元に着しているというこだわりを持って

行うことが多いが、今回の夢空間車両は、過去の繋がりではなく、これから夢空間車両の価値を守り育てることによって清瀬市も育っていく、パートナーとして、これからの縁を作るのだと言い切ったほうが良いと思う。

- ・清瀬市内を走ったことがあるというのは歴史的事実なので、冒頭に記載しなくてもどこかに載せても良いと思う。
- ・タイトルは「関わり」のままで良いと思う。

【5 ページ目：委員会での意見（2）夢空間の活用について】

- ・活用については、今まで出た意見の羅列なので良いと思う。
- ・ダイニングカーとラウンジカー、2両を別々で管理するか、一括で管理してオペレーションで分けるかといった議論も記載しておきたい。

【6 ページ目：委員会での意見（3）夢空間の保存について】

- ・「専門家に任せる」という形は丸投げの姿勢で好ましくないので、「今後の議論に委ねる」といった表現が適切である。
- ・前提として塗装や材料等はできる限り原型を維持するが、ハード面のテクニカルな部分は今後専門家に委ねる、といった議論をしたということを記載しておきたい。

【6 ページ目：委員会からの提言について】

- ・いきなり「活用」の話が出てくるのは前のめりで好ましくないと思う。
- ・まずは、にぎわいの空間を創出し、シティプロモーション促進やシビックプライドの醸成、文化財として価値を維持しながら車両を保存していくという大前提を記載しないといけない。そのうえで、そのために必要なことは何かということで、にぎわい創出の手段としてカフェやレストランという話になってくる。はじめに目的は何であるかを書かないと、何故カフェが出てくるのか？と疑問に思ってしまう。
- ・大きな目的（シティプロモーション促進やシビックプライドの醸成）
→目的達成のための方向性・仕組みづくり→その具体的な施策、といったように3段階くらいに分けて考えないと唐突感がある。
- ・①市民に価値を知ってもらうきっかけ作りをする→②「夢空間を育ててゆく」ことができる「持続的な仕組み」をもつ→③「夢空間を育ててゆく」ことにより、将来実現できる姿を発信して共有する。このように育てていって、結果的にシビックプライドが向上されていく姿のアウトラインを描いた上で、具体的な施策に移ると納まりが良いと思う。
- ・どこまで踏み込んで記載したらよいのか？
⇒例えば、文化財的な価値を維持して調査したりするための学芸員を市に

配置したら良いと思っているが、その学芸員の人件費等細かいことについては委員会で検討して決める必要はない。本委員会では指定管理者をどこにするか等まで考える必要はなく、大枠として打ち出していくイメージである。申し送りのような感じで「このようなことは考えておくべきだ」と記載しておく形で良いと思う。具体的な施策については「例えば」という形で示す。

- ・具体的な施策についても、単に羅列するだけではなく、目的が整理されているとよい。例えば、「これは市民が使うための施策」「これは新規開拓をするための施策」等。
- ・保存に関して、博物館機能を充実させたほうが良いという点についても記載しても良いと思う。例：市民や事業者の活動や調査の記録を記載した年報の作成と公表／夢空間に係る調査とそれに伴う発表や展示／夢空間に係る調査資料の收拾と保管（廃棄期限の扱い無し）等。
- ・保存会等が今後出てくると思うのでこの点についても記載してはどうか。⇒方向性や目的を記載したうえで、具体的な施策をあげる形にしたい。
- ・「保存」の観点を忘れてはならない。

博物館では大切な文化財にカビが生えないよう、飲食禁止もしくはエリアを分けている。夢空間での飲食提供をする場合、食べこぼしや油汚れなどは必ず起こり、カビの発生や車体を傷める原因になる。

公園内にあるため、衛生害虫が入り込む可能性もある。

夢空間という保存すべき文化財があり、そこで何かを行うということなので、保存の面を重視しないと後世に引き継ぐはずの文化財が失われてしまう。車両の中で飲食提供をするのであれば、「保存」の観点からの施策も併せて実施する必要がある、ということは記載すべきである。

- ・「保存⇒活用」の順序で話さないとこの議論は成り立たない。
- ・珍しい車両が清瀬に来たからこれで商売しよう、という話ではない。価値のあるものを保存して伝えていく。そのために様々なイベント等を考えていくということ。そこを履き違えないようにしたい。

【提言書についてまとめ】

以下のような方向性で提言書を作成することについて、委員の承認を得た。

- ・鉄道車両譲受検討委員会で示された方向性を継承し保存と活用を考える。
- ・シティプロモーション、シビックプライドの醸成、持続的な体制を作るという目的をふまえたものにする。
- ・そのためにどのような方向性の事柄を行うか（どのような目的のためにするものか。どのようなことをすると効果が生まれるか。）
- ・具体的なカフェ等の施策は、あくまで案として記載する。

※本日の議論と委員の提案書をもとに委員長が提言書（案）を作成する。

次回は、それをもとに再度議論を行う。

【事務局への依頼】

※これまでの市の議論について年表のように時系列にして提供してほしい。

（６）その他

次回日程は、事務局にて別途調整を行う。

以上